

戦争の記憶継承 若手に期待

県遺族会 「孫の会」発足

戦争の記憶の継承を目的とする県遺族会の専門部会「孫の会」(正式名称・青年部)が11日、発足した。戦没者の孫・ひ孫を中心とする組織で、慰霊巡拝などに参加しながら戦争への理解を深める。県遺族会の会員数は現在、最盛期の半分以下にまで減少。近年は、主に70代の遺児世代が同会の活動を主導してきたが、若手への世代交代が期待される。

【二村祐十朗】

会員数減少、世代交代へ

山形市内で開かれた設立式には、主に20〜60代の遺族約40人が集まった。部長には、同

戦後は続く

2017年

市の山岸正昭さん(57)が就任。祖父正雄さんは旧陸軍少尉で、1945年3月にフィリピン中部のサマル島で戦死した。山岸さんは「私たちは、戦後に苦勞してきた親や親戚の下で育った。(青年部として)独自の活動を模索し、戦争の記憶を後世に伝え続ける責務を全うしたい」と決意を述べた。

を述べた。

顧問には自民党の大沼瑞穂参院議員が選ばれた。厚生労働政務官を務めていることから、国とのパイプ役が期待される。また、日本遺族会会長の水落敏栄・副文部科学相や元会長の古賀誠・元自民党幹事長と同じ派閥「宏池会」に所属することも就任のきっかけの一つ。大沼氏は「(戦没者の)遺骨の帰還も道半ば。平和の継承と推進に努力したい」と意気込みを語

「孫の会」の設立式で山岸正昭さん(左から2人目)をはじめとする執行部らが決意を新たにしている。大沼瑞穂参院議員(左端)も参加した。山形市の県遺族会館で



った。県遺族会の会員数は最盛期(80年前後)には約2万8000人だったが、現在は約1万2000人にまで減っ

た。また、同会の世代別調査(2014〜15年)によると、県内の遺族は孫世代(主に40〜50代)が2129人、ひ孫世代(主に10代)

が1629人。青年部は来年初めにも幹事会を開き、取り組み内容などを協議する予定。会員数の拡大にも力を入れる。一般財団法人「日本遺族会」(東京都)によると、山形を含め26都道府県の遺族会で「青年部」が結成されている。東北は福島県を切り、6県全てで設立された。